



美里分教室 4月の開設から今思うこと。



4月の入学式からはや2ヶ月が過ぎ、美里分教室農場の草花も6月の雨によってあざやかに潤う日が続いております。生徒たち4名も、学校生活に慣れてきたようで、授業中にお互いの意見を出し合って相談したり、休み時間には中学校時代のエピソードで笑い合ったりと、それぞれの個性をあざやかに表現している姿が見られます。前期実習期間中の現在も、隣の教室からは、彼ら4名の楽しそうな声が聞こえています。



先日行われた新入生歓迎球技大会では、大縄跳びやバレーボールといった種目に参加しました。

競技中には、美里高校の部活動生を中心とした「分教室サポートし隊」メンバーとともに円陣を組んでみたり、学校行事の遠足では、他学級のレクリエーションにも参加して少しはにかんだり、美里分教室ならではの交流も味わうことができています。穏やかで控えめな彼らですが、周囲に合わせてハイタッチをしてみたりY MCAダンスを踊ってみたりと、高校生活をエンジョイしている様子が見られます。



さて、美里分教室では「同年代が同一環境で共に送る学校生活」をコンセプトに掲げています。多くの同年代によって構成されている美里高校の環境は、現在の彼らにとっての社会生活そのものであり、卒業後の社会生活で出会うであろう多様性を大いに感じることでできる環境です。それは同時に、自分自身の多様性を見



つめ直す機会でもあり、ひいては自己肯定感を育む機会でもあると考えます。4月の学級オリエンテーションで、自己紹介の長所記入欄を無記入で提出してきた彼らが、5月のレクリエーションで自分の趣味や好きなことを紹介している姿には、美里分教室のこれからの可能性を感じています。



彼らにとってはじめての実習も折り返しを迎え、最終日の校内販売に向けて、彼らのペースで着々と準備を進めています。彼らが作成した植木鉢は、一つ一つ風合いが違いながらも、材料から丁寧に磨き上げられており、彼らが植えた多肉植物は、その内にみずみずしい養分を蓄え、今にも新しい葉を出そうとしています。 【美里分教室 喜久川義弘】



4人が植えた植物、一つ一つ違いはあるけど、共に育て、友と育て⇒

